

特別支援学級 算数科学習指導案

1 単元名

「長さの測り方」 ～くすの木オリンピック・パラリンピックにチャレンジしよう～

2 単元について

(1) 学習内容

本単元で扱う内容は、算数科学習指導要領解説では以下のように位置付けられている。

第1学年 C 測定

(1) 身の回りのものの大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 長さの量を、具体的な操作によって直接比べたり、他のものを用いて比べたりすること。

(イ) 身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 身の回りのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだすこと。

第2学年 C 測定

(1) 量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 長さの単位（ミリメートル（mm）、センチメートル（cm）、メートル（m））について知り、測定の意味を理解すること。

(イ) 長さについて、およその見当を付け、単位を適切に選択して測定すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 身の回りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりすること。

今回の単元では、第1学年の学習と第2学年の学習を取り入れながら進めていく。

第2学年では、普遍単位を用いることの必要性に気付かせ、単位の意味について理解させるとともに、それを用いて正しく測定すること（普遍単位による測定）を主なねらいとしている。身の回りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり比べたりすることもねらいとしている。そこで、普遍単位を用いて測定したり表現したりする力を身に付けられるように指導をしていく。しかし、児童の中には、間接比較についての技能が身に付いていない児童もいる。そのため、身の回りにあるものを測定する際、基準を決め、その幾つ分かで数値化することを目標とし、大きさの違いを明確にしていく活動を行っていく。

本時は、2024年、夏に行われたオリンピック・パラリンピックに関連した遊びからの長さの測定を行っていくこととした。2024年はパリオリンピック・パラリンピックが行われ、子供たちの夏休みの思い出に出てくるほど注目していた。しかし、オリンピック・パラリンピック種目の中に中心からの距離を測る種目があることに気が付くことができていない。そのため、今回の授業において実際のオリンピック・パラリンピックに関連した遊びを取り入れることにより、楽しみながら今後の生活につながる学習にしていきたいと考えた。また、算数科の部分においても固定物の測定を的の中心からの測定という発展的な学習となっている。このようなことから、算数科のみならず体育科、生活単元学習など教科横断的な学習とするためにこの学習

を設定した。

長さについては、生活や学習の場面で使用される場面が多くあり、将来の就労先の作業にも必要であることが考えられる。そのため、本単元で「長さ」に関する基礎概念を獲得することで、児童の生活力や学習に取り組む態度が向上するとともに、教具を工夫して操作しながら活動をすることで、児童が興味関心を示したり、自ら進んで取り組んだりして、皆で楽しく学ぶことにつなげていきたいと考えた。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校 1年生	<ul style="list-style-type: none"> 長さの量を、具体的な操作によって直接比べたり、他のものを用いて比べたりすること。 身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べること。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるものの大きさを単位としてその幾つ分かで数値化することで、大きさの違いを明確にすることのよさに気付いている。
小学校 2年生	<ul style="list-style-type: none"> 長さの単位（ミリメートル（mm）、センチメートル（cm）、メートル（m））について知り、測定の意味を理解すること。 長さのおよその見当を付け、単位を適切に選択して測定すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ものの大きさについて普遍単位を用いて進んで表現したり、測定する対象の大きさに応じた適切な単位を選択して的確に伝えようとしたりする。

4 目指す子供の姿

- 「長さ」に興味をもち、進んで長さを測ったり、比べたりする子供
- 巻き尺、定規の使い方を理解し、自分に合った計測方法を選択して進んで学習に取り組む子供
- 友達と協力しながら、課題解決に向かう子供

5 研究の視点

視点1：個別最適な学びにつながる指導や支援

○実態に応じたグループ編成や手立ての工夫

本学級の算数の授業は障害の特性や個別の実態を考慮しながらグループ編成を行い、児童の学習活動が効果的に行われるように配慮している。児童の実態として、言葉や数字だけではなかなか理解するのが難しいことから、実際に操作しながら学習を進めていき、段階的に発展させていく。手立てとしても、通常定規や巻尺を活用するのが難しい児童に対しては、方眼紙のマスの数で測れるものを用意し、センチメートル（cm）のみ測れるようにする。通常のもので活用できる児童に対しても、定規のミリメートル（mm）の部分が徐々に大きくなる定規などを用意し、一人一人が活用しやすいものを用意していく。比較をする際にも数字での比較と実際の長さを比較することの双方を行うことにより理解を深めていく。その他にも視覚的に気付けるようなアプローチを多く用意しておくことで、混乱せずに活動に取り組むことができると考える。

視点2：協働的な学びにつながる指導や支援（視点2）

○助け合いながら学習を進められるペアの組み合わせ

本時では、あらかじめペアを設定しておき、活動した。児童同士でペアを組むことにより、助け合いながら学習を進めていく。理解が進んでいる児童においても友達を助けることを通してさらに理解が深まると考える。また、言葉のかけ方などコミュニケーションにおけるポイントについても指導し、他者と関わる力の育成につなげていきたい。将来社会に出るうえで必要不可欠であるので、協働的な学習を増やしていく必要があると考える。

6 単元(題材)の指導計画(12時間)

時	目 標	学 習 活 動	評 価 規 準
1	○長さを測るときに必要なものについて考えよう。	○長さを測る際に、なぜ基準となるものが必要かを考える活動を行っていく。	・長さの量を、具体的な操作によって直接比べることができる。 【知・技】
2	○身近なものを用いて長さを測ってみよう。	○身近にある消しゴムや鉛筆を用いて長さを測る活動を行っていく。	・長さの量を、他のものを用いて比べることができる。【知・技】 ・身の回りのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだすことができる。【思・判・表】
3 4 5 6 7 8	○基準を用いて長さを測ってみよう。	【Aグループ】 ○方眼紙のマスをを用いて、長さを測る活動を行っていく。 【Bグループ】 ○定規を用いて、長さを測る活動を行っていく。	・身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べることができる。【知・技】 ・長さのおよその見当を付け、単位を適切に選択して測定することができる。【知・技】
9 10	○センチメートルとメートルの違いについて考えよう。	○センチメートルとメートルの違いについて考える活動を行っていく。 ○実際にメートルのものを測る活動を行っていく。	・長さの単位（メートル（m））について知り、測定の意味を理解することができる。【知・技】 ・身の回りのものの特徴に着目し目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりすることができる。【思・判・表】
11 (本時) 12	○自分の記録を測ってみよう。 (くすの木オリンピック・パラリンピックに挑戦し、記録を測る活動を行う。)	【Aグループ】 ○方眼紙のマスをを用いて、長さを測る活動を行っていく。 【Bグループ】 ○定規や巻尺を用いて、長さを測る活動を行っていく。	・身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べることができる。【知・技】 ・身の回りにあるものの大きさを単位としてその幾つ分かで数値化することで、大きさの違いを明確にすることのよさに気付いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・長さのおよその見当を付け、単位を適切に選択して測定することができる。【知・技】

		<ul style="list-style-type: none"> ・ものの大きさについて普遍単位を用いて進んで表現したり、測定する対象の大きさに応じた適切な単位を選択して的確に伝えようとしていたりすることができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>
--	--	---

7 本時の指導

(1) 全体目標

- ・自分に合った方法で長さを測ることができる。【知識及び技能】
- ・自分に合った測定器具を選び、活用することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・意欲的に活動に取り組み、協力しながら長さを測ることができる。【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 個別の実態

児童	本単元に関する実態	単元の目標	本時の目標
	<ul style="list-style-type: none"> ○間接比較をする際、向きや比較するものが曲がっていると比較を誤る。 ○測定器具として定規や巻尺を使用した経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つかで大きさを比べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○マス目を使って、長さを測ることができる。 <p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の使ったことのある測定器具を選び、活用することができる。 <p>【思・判・表】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○直接比較、間接比較ともにできる。 ○測定器具として定規や巻尺を使用した経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長さの単位（センチメートル（cm））について知り、測定の意味を理解することができる。 ○長さのおよその見当を付け、単位を適切に選択して測定することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○センチメートルまでの長さを測ることができる。 <p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分が使ったことのある測定器具を選び、活用することができる。 <p>【思・判・表】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○センチメートルまで測定したことがある。 ○数字の読みやミリメートルの読みにおいて、見誤る。 ○定規の当て方など誤ることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長さの単位（ミリメートル（mm）、センチメートル（cm）、メートル（m））について知り、測定の意味を理解することができる。 ・長さのおよその見当を付け、単位を適切に選択して測定することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ミリメートルまでの長さを測ることができる。 <p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分が使ったことのある測定器具を選び、活用することができる。 <p>【思・判・表】</p>

15	<p>4 結果発表</p> <p>○全員くすの木0組に集まり、各種目の結果発表を行う。</p>	<p>○各グループの結果をテレビに映しながら確認をしていく。</p>	<p>□各グループの測り方を理解することができる。</p>
5	<p>5 まとめ</p> <p>○記録用紙に本時の振り返りを記入する。</p> <p>○次時の活動（学習）について説明する。</p>	<p>○ワークシートの振り返りのところに本時学べたと思う項目に丸を付けるように促す。</p>	